

2019(平成31)年度日本語指導研究推進事業

実践報告資料集

兵庫県教育委員会

目次

- 1 芦屋市立潮見小学校 …… 1
- 2 三木市立三樹小学校 …… 8
- 3 姫路市立城東小学校 …… 15

[学校名：芦屋市立潮見小学校]

【具体的な研究テーマ】 在籍学級での学習につなげる日本語指導
--

1 教科：単元名 理科：ふりこのきまりを調べよう	
2 実施日（時期） 11月下旬	3 実施場所 こくさいルーム
4 児童・生徒の実態に応じたねらい (1) 児童の様子…学年・国籍、学習状況、日本語習得状況など ・児童 A 4年生の11月にペルーから本校へ編入した。現在は5年生。母語はスペイン語。放課後にこくさいルームで日本語指導と教科指導を受けている。週に2日は基本的な語彙や日本語表現を学習し、週に3日は教科の先行学習や理解できなかった内容の復習をしている。在籍学級では、教師の話の大意はある程度つかむことができるが、詳細は理解できていないので、一人で問題を解いたり文章を書いたりすることは難しい。 日本語習得状況について【DLA結果（5月）】 ●語彙力チェック…47% ●話す…ステージ4 ●読む…ステージ3 ●書く…ステージ3 ●聴く…ステージ4 ・児童 B 5年生の10月に韓国から本校へ編入した。母語は韓国語。母親とは日本語で話しており、日常会話はできる。ひらがな、カタカナは読み書きできるが、漢字は2年生レベル。 【DLA結果（10月）】 ●語彙力チェック…54% ●話す…ステージ3 ●読む…ステージ3 ●書く…ステージ2 ●聴く…ステージ3 (2) 日本語指導に関する目標 ・「振り子・おもり・振り子の長さ・振幅・往復」という言葉を理解できる。 ・「～たら、～になる」という「条件」を変えた場合の結果を答える文型を使って表現することができる。 (3) 主な学習活動 ①振り子について知る。 ②ブランコに乗って1往復の時間を計る。 ③1往復の時間が変わるかどうかを調べる。	
5 評価の観点 指導案に記載	
6 指導内容の概要（※指導案別途添付） (1) 生活の中で振り子が使われているものを考えさせる。 (2) 振り子の各部の名称をおさえる。 (3) ブランコに乗って1往復の時間を計る際に、平均のとり方を想起させる。	

<p>(4) 1往復の時間が変わるかどうかを調べる際に、条件は1つだけ変えることを想起させる。</p>
<p>7 指導内容・方法において工夫したところ</p> <p>(1) 学習言語の定着につながるように、キーワードを明確化する。</p> <p>(2) ブランコに実際に乗る体験を通して、振り子の運動を知る。</p> <p>(3) 既習の学習を想起させる。</p> <p>(4) 「1往復の時間は変えられるのだろうか」と問いかける。</p> <p>(5) 「(条件が) ~たら、~になる」を使って予想させる。</p>
<p>8 教材・教具</p> <p>ブランコ、ストップウォッチ、ワークシート、電卓</p>
<p>9 活動の様子(写真等)や児童・生徒の感想等</p> <p>日常生活の中で振り子を使ったものは、ブランコや振り子時計があることを知っており、すぐに振り子の意味を捉えることができた。キーワードを明確化したため、実際にブランコに乗る時も学習言語で話すことができた。1往復の時間を2人で計った後、教師2人も同様に計ったところ、4人の平均時間がほぼ等しく、おもりの重さが変わっても1往復の時間が変わらないことが分かった。その後、1往復の時間は変えられるのだろうかという問いに対して、「立ってこいだら時間が短くなる」と、「振れ幅を変えたら変わる」という意見がそれぞれ出て、実際に計ってみた。立ってこいだ場合、時間が短くなり、振れ幅を小さくすると、時間はあまり変わらないという結果が出た。</p> <p>日本語指導に関する目標としていた「~たら、~になる」という文型は、2人とも既に使うことができていた。</p>
<p>10 日本語能力測定方法と評価(DLAの活用)</p> <p>DLAによる日本語能力測定は、5月、1月の年2回実施した。児童の集中力に配慮して複数回に分けて測定した。測定による評価をすることで、児童の日本語能力の実態と伸びを知り、日本語指導を効果的に行う指標として活用した。</p>
<p>11 実践をとおしての成果</p> <p>(1) キーワードを明確化したことや、ブランコに乗る際もキーワードを可視化したことで、学習言語の定着につながった。</p> <p>(2) 取り出しで少人数での授業のため、実際にブランコに乗っての体験ができた。また、在籍学級では、あまり発言が見られない児童が、少人数の場で意見を話すことができた。</p> <p>(3) 既習の学習を想起させることによって、他教科との関連を持たせ、学習に深まりがみられた。他の教科で入り込みでの指導も行っているため、既習学習を生かすことができた。</p>
<p>12 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科の授業では、実験する前に予想を立てさせているが、個人の予想を自分の言葉で書いたり、ペアで話させたりして、言葉の習得実態を個別に捉えて、指導したい。ペアで話すことを通して、違う考え方があることに気付いたり、自分の考えを広げたりできるような指導を工夫したい。 ・「(条件が) ~たら、~になる」の表現は、2人は既にできており、「~ても、~ない」の表現まで使っていた。使える文型とそうでない文型を見極め、学習につなげていく必要がある。 ・在籍学級での学習でも、母語が定着しているか確認したり、日本語の目標を意識したりして授業を進めていく必要がある。

第5学年 理科（日本語）学習指導案

指導者 宮下 慶子

- 1 対象 第5学年 2名
- 2 日時 令和元年11月22日（金）第5校時
- 3 場所 こくさいルーム
- 4 単元名 ふりこのきまりを調べよう （理科5年 啓林館）
- 5 単元の指導目標

(1) 理科の指導目標

関心・意欲・態度	思考・表現	技能	知識・理解
振り子の運動の変化に興味・関心を持ち、自ら振り子の運動の規則性を調べようとする。	①振り子の運動の変化とその要因について予想や仮説をもち、条件に着目して実験を計画し表現することができる。	①振り子の運動の規則性を調べる工夫をし、それぞれの実験装置を的確に操作し、計画的に実験することができる。	振り子が1往復する時間は、おもりの重さや振れ幅に関係なく、振り子の長さによって変わることを理解する。
	②振り子の運動の変化とその要因とを関係付けて考察し、自分の考えを表現することができる。	②振り子の運動の規則性を調べ、その過程や結果を定量的に記録することができる。	

(2) 日本語指導

- ・「振り子・おもり・振り子の長さ・振れ幅・往復」という言葉を理解できる。
- ・「～たら、～になる」という「条件」を変えた場合の結果を答える文型を使って表現することができる。

6 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・表現	技能	知識・理解
振り子の運動の変化に興味・関心を持ち、自ら振り子の運動の規則性を調べようとしている。	①振り子の運動の変化とその要因について予想や仮説をもち、条件に着目して実験を計画し表現している。	①振り子の運動の規則性を調べる工夫をし、それぞれの実験装置を的確に操作し、計画的に実験している。	振り子が1往復する時間は、おもりの重さや振れ幅に関係なく、振り子の長さによって変わることを理解している。
	②振り子の運動の変化とその要因とを関係付けて考察し、自分の考えを表現している。	②振り子の運動の規則性を調べ、その過程や結果を定量的に記録している。	

7 指導にあたって

(1) 児童観

・児童 A

平成 30 年の 11 月にペルーから編入してきた。母語はスペイン語。来日半年間は週に 3 日スペイン語の母語支援を受けながら授業を受けていた。日本語や教科、漢字の学習にも熱心に取り組み、4 月には、教師や友だちの話をおおまかに理解できるようになっていた。授業中も発表する機会が増えている。

理科の学習においては、ペルーでは実験や観察などをあまり行ってこなかったことや、未習得の学習内容もあり、苦手意識をもっている。特別の教育課程により先行学習を行い、理科の授業で使われる学習用語や基礎知識を学び、体験を積んだうえで、在籍学級での学習につなげていく。

【DLA 結果 (5 月)】

●語彙力チェック…47%

●話す…ステージ 4 ●読む…ステージ 3 ●書く…ステージ 3 ●聴く…ステージ 4

・児童 B

令和元年 10 月に韓国から編入してきた。母語は韓国語。母親とは日本語で話しており、日常会話はできる。ひらがな、カタカナは読み書きできるが、漢字は 2 年生レベル。

【DLA 結果 (10 月)】

●語彙力チェック…54%

●話す…ステージ 3 ●読む…ステージ 3 ●書く…ステージ 2 ●聴く…ステージ 3

(2) 教材観

振り子のおもりの重さや糸の長さ、振れ幅などを変えて調べ、振り子はその長さによって 1 往復する時間が変わることを捉えることができるようにする。児童が主体的にものの運動にかかわる条件を制御しながら規則性を追究する中で、振り子が 1 往復する時間に関係する条件についての予想や仮説を基に解決の方法を発想し、表現する能力を身に付けることができるようにする。

〈日本語指導の観点〉

この単元において、「～たら、～になる」という条件を変えた場合の結果を答える文型を使って表現できるようにする。

(3) 指導観

児童が振り子の振れ方の違いに興味・関心をもち、おもりの重さや糸の長さの違い振り子をつくって、それらの運動の規則性を調べる時間を設定した。そして、規則性を調べることにおける、条件を制御することの必要性に気づいて、実験の計画を立てることができるようにした。実験では「おもりの重さ」「ふりこの長さ」「ふれはば」などの条件を変えて調べて得られた結果から、誤差を含む計定値の平均をとることなどによって、規則性を見いだすことができるようにした。

〈日本語指導の観点〉

先行授業として、実際にブランコに乗って体験することで理解をうながす。実物の振り子を見せながら、キーワードとなる「振り子・おもり・振り子の長さ・振れ幅・往復」という言葉をおさえる。また、普段の生活の中で振り子が使われているものを写真で提示する。「～たら、～になる」という「条件」を変えた場合の結果を答える文型を使って、繰り返し練習させる。

この先行授業の経験をもとに、在籍学級での他教科での学習に意欲的に取り組めるようにする。

8 指導計画（全4時間のうち、取り出し1時間、在籍学級3時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1 (本時) 取り出し	振り子の運動の規則性を調べる。 〈日本語〉 振り子について知り、1往復の時間は変わるかどうかを予想する。	振り子の定義とそのつくりを確認する。実際に振り子が振れるようすを演示しながら、「振り子の長さ」「振れ幅」「1往復」などの用語をおさえる。	振り子の運動の変化に興味・関心をもち、自ら振り子の運動の規則性を調べようとする。(関・意)
2 在籍	振り子が1往復する時間は、どんな条件で変わるかを考える。	実験を行うとき、変える条件と同じにする条件について話し合わせる。	振り子の運動の変化とその要因について予想や仮説をもち、条件に着目して実験を計画し、表現することができる。(思・表)
3 在籍	条件を変えて調べ、振り子が1往復する時間の決まりを見つける。	振れ幅を決めるときは、糸がたるまないようにしてはかることや、おもりを縦につながないこと、振り子の長さはおもりの中心まではかることなどを確認しておく。	振り子の運動の規則性を調べる工夫をし、それぞれの実験装置を的確に操作し、計画的に実験することができる。(技能) 振り子の運動の規則性を調べ、その過程や結果を定量的に記録することができる。(技能)
4 在籍	実験の結果からどのようなことが分かるか、話し合う。	変えた条件、変えなかった条件に注目し、1往復する時間はどのようになったのか考察させる。	・振り子の運動の変化とその要因とを関係付けて考察し、自分の考えを表現することができる。(思考) ・振り子が1往復する時間は、おもりの重さや振れ幅に関係なく、振り子の長さによって変わること理解する。

9 本時の目標

- ・「振り子・おもり・振り子の長さ・振れ幅・往復」という言葉を理解できる。
- ・「～たら，～になる」という「条件」を変えた場合の結果を予想して話すことができる。

10 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
<p>1 ふりこについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランコ ・ふりこ時計 <p>2 実際にブランコに乗って1往復の時間を計る。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p> <p>4 1往復の時間は変わるかどうかを考える。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で振り子が使われているものの写真を見せる。 ・振り子の図を準備し，各部の名称をおさえる。（必要があれば，スペイン語，韓国語でも伝える。） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">1 往復の時間を計ろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりこが1往復する時間の計り方を考える。 ・答えられない場合は，ストップウォッチで10往復した時間を10で割ったものを1往復の時間であることを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">1 往復の時間は変わるかどうかを調べよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・条件を変えたら変わることを前提とせず，1往復の時間が変わるかどうかから考えさせる。 ・「～たら（どうなるか）」という「条件」を変えた場合の予想を考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ○振れ幅を変えたら～になる ○おもりの重さを変えたら～になる ○振り子の長さを変えたら～になる 	<p>振り子の運動の変化に興味・関心を持ち，自ら振り子の運動の規則性を調べようとしている。</p> <p>（関・意・態）</p> <p>振り子の運動の変化とその要因について予想や仮説をもち，条件に着目して実験を計画しする。</p> <p>（思・表）</p>

11 授業の成果と課題

(1) 成果

- ・キーワードを明確化したことや、ブランクに乗る際もキーワードを可視化したことで、学習言語の定着につながった。
- ・取り出しで少人数での授業のため、実際にブランクに乗っての体験ができた。また、在籍学級では、あまり発言が見られない児童が、少人数の場で意見を言うことができた。
- ・既習の学習を想起させることによって、他教科との関連を持たせ、学習に深まりがみられた。他の教科で入り込みでの指導も行っているので、既習学習を生かすことができた。

(2) 課題

- ・今回の授業では、振り子の実験に入る前の導入の学習であったため、予想を出すところで終わっていただければよかったが、実際に実験してしまったので、もっとじっくりと予想させるべきだった。
- ・「(条件が) ～たら、～になる」の表現は、2人は既にできており、「～ても、～ない」の表現まで使えていた。使える文型とそうでない文型を見極め、学習につなげていく必要がある。

[学校名：三木市立三樹小学校]

【具体的な研究テーマ】 外国人児童の自己実現を支援する効果的な日本語指導のあり方について ～JSL対話型アセスメントDLAを活用した効果的な取り出し指導～	
1 教科：単元名 算数：どんな計算になるのかな（2）	
2 実施日（時期） 令和2年1月21日（水）	3 実施場所 三樹小学校 スマイル教室
4 児童・生徒の実態に応じたねらい (1) 児童の様子…学年・国籍、学習状況、日本語習得状況など A児…2年・パキスタン 同じ学年の学習についていくのは難しいところが多い。 DLA ステージ2 Y児…2年・フィリピン 算数を苦手としている。読解力も弱い。 DLA ステージ3 D児…2年・ペルー 同じ学年の学習にほぼ参加できるが、学習言語の理解が難しくなっている。 DLA ステージ4 (2) 日本語指導に関する目標 ・時間の流れを理解し、日付や曜日、昨日や明日の日付や曜日を付け加えながら、あいさつすることができる。 ・「 $\bigcirc \times \triangle$ になるわけは、一つ分の数は \bigcirc で、その \triangle つ分だからです。」という表現を使って、かけ算にした理由を説明できる。 (3) 主な学習活動 ・日付や曜日などを確認しながら、あいさつや日常会話のやりとりをする。 ・算数の問題を声に出して読み、解く。 ・個別の課題に取り組む。	
5 評価の観点（※指導案に記載してある場合は不要） ・問題から何算になるのか考え、式と答えを求めている。 （発表・ワークシート） ・問題の内容を絵や図などで表すことができる。（ワークシート） ・かけ算になる理由を説明することができる。（発表・ワークシート）	
6 指導内容の概要（※指導案別途添付）	
7 指導内容・方法において工夫したところ ・クッキーやあめの絵、袋や箱を用意し、数のまとまりがわかりやすいように視覚的に問題をとらえさせた。 ・ワークシートに絵や図を描いて考える欄を作り、問題の内容を整理した上で立式したり、答えを求めたりできるように工夫した。 ・日本語の習得度に違いがあるため、ワークシートの空欄の部分を変えたものも用意し、子どもたちが自分で選べるようにした。 ・DLAの実施にあたっては、集中力を保ったままアセスメントができるよう、児童に合わせてテンポよく進めた。 ・答えに詰まった時も、答えが出るまで待ったり、問題文を2回読んだりなどして、安心して取り組める雰囲気作りを心掛けた。	

8 教材・教具

- ・教科書 ・ワークシート ・クッキーやあめ、ふくろや箱の絵
- ・DLA実施のためのカードなど

9 活動の様子（写真等）や児童・生徒の感想等

（児童の感想）

- ・絵や図を描くのが難しかったけど、楽しかった。
- ・はじめは、口に入る言葉がわからなかったけど、2回目は簡単だった。
- ・この問題はかけ算になることがわかった。
- ・先生がいっぱい恥ずかしかった。



式や答えを黒板に書いている様子



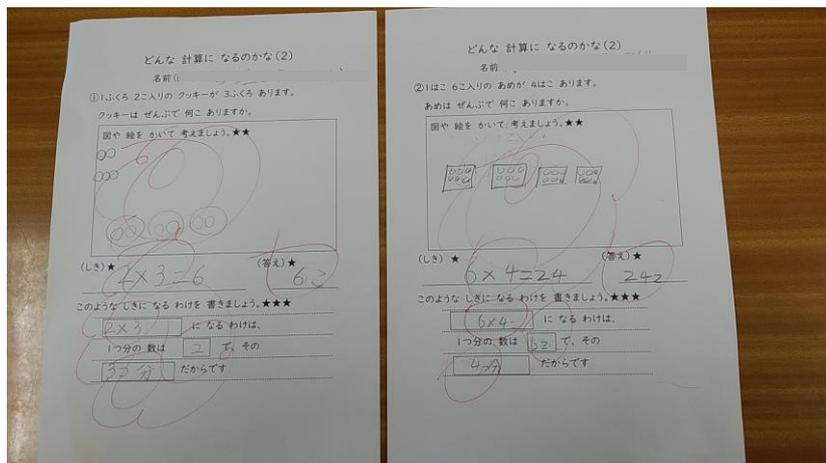
ワークシートに図や絵を描いている様子



授業風景



DLAを実施している様子



児童が書いたワークシート

10 日本語能力測定方法と評価（DLAの活用）

- ・今年度は、本校においてDLAと日本語習得度確認シートによる日本語能力の測定と評価を初めて実施した。（4月と1月）

- ・日本語指導推進教員が中心となり、在籍学級担任や日本語指導支援員にも協力を得ながら実施した。
- ・ニューカマー編入時には、子ども多文化共生サポーターと協力をして、母語によるDLAを実施し、母語の習得度を把握することができた。
- ・今年度の特別の教育課程の編成にあたり、DLAや日本語習得度確認シートの評価を参考にし、必要に応じ見直しも行った。
- ・来年度の特別の教育課程の編成にあたり、DLAや日本語習得度確認シートの評価を参考にできた。

11 実践をとおしての成果

- ・今年度、日本語教室を立ち上げた。教材や掲示物などをそろえ、自主的に単語や漢字が覚えられる環境を整えたことで、児童が互いに刺激しあいながら楽しく学習できる場となり、児童の自己実現に向けて、『学びに向かう力』も高まってきた。
- ・DLAと日本語習得度確認シートによる日本語能力の測定と評価を行ったことで、児童の実態が把握できた。また、その結果を活用して、特別の教育課程を組んだり、指導内容を考えたり、指導方法を改善したりすることができた。さらに1年間に2回（プレとポスト）DLAを実施することにより、児童の1年間の成長を実感することができ、大変有効であった。
- ・取り出し指導においては、在籍学級担任や子ども多文化共生サポーター、日本語指導支援員と連携しながら、学習内容や課題、時間割等を密に連絡を取り合って進めてきた。また、日本語指導研究推進委員会を定期的に開催し、児童の生活面・学習面の情報共有と行動の連携を図った。さらに、日本語指導推進教員が参加した指導者養成研修や研修会などの伝達講習（ミニ研修）を全職員に行った。講師を招聘した校内研修も行い、全教職員で研究を進めていこうとする雰囲気が高まってきている。
- ・児童集会での「世界のあいさつ紹介」や三木市国際交流協会の多文化共生出前講座「外国の文化について知ろう」（フィリピン・ブラジル）を行った。実施後には、外国にルーツをもつ児童に対して、「すごいね。」「もっとポルトガル語教えて。」など友だちの母語に触れようとする児童や、廊下に掲示をしている外国を紹介する掲示物を見て、「日本と全然違う。」「この食べ物日本にあったら食べたい。」など、友だちの母国の文化に興味・関心を持って関わろうとする児童が増えてきた。本校には外国にルーツをもつ児童が増えてきたが、そのような児童の存在が当たり前で自然と関われる校風になってきている。
- ・市教委と連携して、市内の日本語指導連絡会も行った。日本語指導支援員や支援推進校の担当教員、日本語指導に関心のある教員が集まった。その際には、研究授業も行い、教科学習とDLAの実施方法について公開した。事後研修では、DLAの実施方法のポイントや個別の指導計画の作成について交流を行った。近年三木市にはニューカマーの入学や編入が多くなってきているため、自分のこととして日本語指導について学ぼうとする教員が増えてきていることもさまざまな取り組みの成果である。
- ・日本語指導推進教員としては、文部科学省の日本語指導者養成研修や先進校の視察、研修会への参加など、常に指導方法、支援体制づくりなどの新しい情報を求め、専門性を高めるための努力を惜しまず取り組んだ。専門的な知識を活かし、指導内容の見直しや支援方法の改善などを繰り返し行ったことで、校内、市内ともに日本語指導の実践を少しずつ前に進めることができたと感じている。

本年度の研究経過は以下のとおりである。

月	内 容
4	日本語指導研究推進委員会の設置 DLAを活用した日本語能力チェック ホームページの作成（日本語教室、校内多文化共生教育について啓発活動） 随時更新

5	事業計画書作成・提出 推進体制・計画等の詳細決定 第1回日本語指導研究推進校連絡会(5/10) 第1回日本語指導研究推進委員会(5/29)
6	年間計画表提出 文部科学省日本語指導指導者養成研修受講(6/18~6/21)
7	夏休み日本語教室の実施(7/21~24)
8	日本語指導校内研修「やさしいにほんごの活用について」(8/6) 第2回日本語指導研究推進委員会(8/29) 夏休み日本語教室の実施(8/26~28) 2学期に向けて日本語指導推進体制・計画等の見直し・修正 教材開発
9	
10	第2回日本語指導研究推進校連絡会(10/7) 日本語教室公開 日本語指導校内研修会「外国にルーツをもつ児童の受け入れについて」(講師:広島大学 櫻井 千穂氏) 丹波篠山市立岡野小学校 日本語指導校内研修講師(10/10)
11	芦屋市立潮見小学校 研究授業参観(11/22)
12	第3回日本語指導研究推進校連絡会(12/6) 3学期に向けて日本語指導推進体制・計画等の見直し・修正
1	日本語指導研究推進委員会(1/6) 日本語指導 研究授業公開(1/21) 三木市日本語指導連絡会(1/21) 芦屋国際中等教育学校 研究授業参観(1/28) DLAを活用した日本語能力チェック
2	DLAを活用した日本語能力チェック 実践報告資料提出 日本語指導研究推進委員会「今年度のまとめと来年度に向けて」(2/19)
3	事業報告書提出 実践報告資料(ホームページアップ)

12 今後の課題

- ・学校では、最終的に児童が在籍学級で活躍できることが、日本語指導において目指すところである。在籍学級の学びにつなぐための取り出し指導の在り方とともに、在籍学級における効果的な支援方法についても研究を進めていく。
- ・増え続けるニューカマーに対して、急な編入でも落ち着いて迎えられるように、学校全体で三木市で作成している『外国人の子どものための指導支援ハンドブック』について共通理解をし、今日的な課題にも対応できるようにしていく。また、在籍学級でもサバイバル日本語や日本語初期の指導が必要となってくる時期を見据えて、指導方法や支援教材などを共有できるように準備を進めていく。
- ・本校の教職員すべてが日本語指導研究推進校の推進教員としての自覚をもち、市内に日本語指導を広めていけるよう、研修を重ね、専門性を高めていく。
- ・県内、市内の日本語指導拠点校としての役割も考え、ホームページ等で取組の発信や啓発に努め、市教委と連携し、三木市日本語指導連絡会や日本語指導に関する研修も充実させていく。

第2学年 日本語指導学習指導案

日時 令和2年1月21日(火) 5校時
 場所 三木市立三樹小学校 スマイル教室
 指導者 京極 実香子

1 教材名 どんな計算になるのかな(2)(啓林館) DLA測定

2 対象児童について

2年 A児(8歳)、Y児(8歳)、D児(8歳)

	児童をとりまく 環境・背景	日本語習得状況(DLA)	学習に関する力
A児	【パキスタン国籍】 ・R元年7月 編入 ・家庭内言語はウルド ゥー語、日本語	(DLA) R元年12月実施 (日本語) 導入会話 93% 語彙カード 56% <話す> ステージ2 <読む> ステージ2	・たし算やひき算の筆算、か け算の計算はある程度でき る。 ・九九の暗唱はのぼり九九の みすべて合格している。 ・文章題はわからないものが 多い。 ・ひらがなはすべて読める。 カタカナは少し読める。
Y児	【フィリピン国籍】 ・H28年来日 ・家庭内言語は英語、 日本語 ・母親は少し日本語が 話せる。	(DLA) R元年5月実施 (日本語) 導入会話 100% 語彙カード 49% <話す> ステージ3 <読む> ステージ1 <書く> ステージ2 <総合> ステージ2	・算数に対して苦手意識があ るが、かけ算は好きと言っ ている。文章題は苦手。 ・たし算やひき算は指を使っ て計算している。 ・九九の暗唱はのぼり九九の みすべて合格している。
D児	【ペルー国籍】 ・日本生まれ ・家庭内言語はスペイ ン語、日本語。 ・母親は少し日本語が 話せる。	(DLA) R元年5月実施 (日本語) 導入会話 87% 語彙カード 70% <話す> ステージ3 <読む> ステージ2 <書く> ステージ3 <総合> ステージ3	・算数に対して自信をもって 取り組めるが、文章題は苦 手である。 ・たし算やひき算の筆算は少 しのミスはあるが、すらす ら計算できる。 ・九九の暗唱はのぼり九九で 6の段まで合格している。

3 本時の学習形態

本時は、日本語習得度がそれぞれ異なる3人の児童が、同じ内容の活動をしたり、三つの異なる学習内容に取り組んだりする学習形態になる。本時のような学習形態を行うことは、日本語教室では日常である。指導者としては効果的な支援や効率的な学習の構成に毎時間頭を悩ますが、共に日本の学校で学ぶ仲間として、子どもたちが互いに違いを認め合い、学び合いながら楽しく学習する時間としたい。

4 指導にあたって

3人ともに特別の教育課程を編成して、取り出し指導を受けるのは1年目である。3人とも日本語教室での学習をととても楽しみにしてやってくる。滞日期間は2か月～8年で、日本語の習得のスピードもさまざまである。そのため、日本語の初期指導前期段階の児童もいれば、初期指導後期段階、在籍学級での学びへつながる教科学習を行う児童もいる。この3人で学習するようになったのは、3学期に入ってからだが、全員そろって学習したのはまだ数回しかない。

本時の「どんな計算になるのかな」は、具体的な生活場面において、かけ算の演算決定をして、問題を解き、その理由を説明する活動も取り入れた文章題である。絵や図、九九表などの視覚支援を得ながら、立式して問題を解いたり、「同じ数のいくつ分」ということばの記憶支援を得ながら説明したりできる。また、文章の中に出てくる簡単なことばを覚えながら、学習を進めていくこともできる。そのため、生活言語や学習言語の習得が十分でない児童にとっても適した教材だと考えた。

指導にあたっては、日本語の習得度がさまざまであるため、挿絵や既習内容の掲示、ワークシートなどを使って、視覚的に情報を捉えることができるように支援していく。また、ワークシートに記入していく際に、「〇〇（同じ数）のいくつ分は何算になるかな。」というターゲットセンテンスを用いて声をかけることで、かけ算の演算決定ができるように促す。さらに、Y児D児には、「 $\bigcirc \times \triangle$ になるわけは、一つ分の数は \bigcirc で、その \triangle つ分だからです。」という表現を使って、かけ算にした理由を説明できるようワークシートを用いて記憶支援を行う。ヒントを頼りに自分で理由を考え、発表させることで、達成感を味わわせ、文章題への抵抗が少しでもなくなることを期待したい。

5 本時の目標

- A児
 - ・大きな声ではっきりと号令をかけることができる。
 - ・問題をゆっくりと音読することができる。
 - ・問題から何算になるのか考え、式と答えを求めることができる。
 - ・聞かれた質問に進んで答えようとする。
- Y児・D児
 - ・問題の内容を絵や図を使って表すことができる。
 - ・かけ算を使って問題を解き、式と答えを求めることができる。
 - ・かけ算になる理由を説明することができる。

6 本時の展開

学習活動	A児の活動	Y児・D児の活動
1 あいさつをする。	・日付や曜日もつけ加える。	・昨日、明日の日付や曜日もつけ加える。
2. 学習の流れを知る。 ①算数 ②日本語 プリント カード	・活動を声に出して読む。	・活動を声に出して読む。
3. 算数の問題を解く。	・問題に出てくる言葉を確認する。 ・問題を声に出して読む。 ・黒板をヒントにして考える。	・まずは一人で考える。 ・問題の内容を絵や図、ことばを使って表し、式と答えを求める。

<p>4. 類題を解く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図に表したり、ヒントカードを見たりして考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算になる理由を説明する。 ・わからないところは互いに教え合う。
<p>5. 個別の課題に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・DLA (話す) を測定する。 ・知っている日本語を使って、落ち着いて話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数のプリントをする。 ・カードを使って単語や漢字を覚え、互いに聞き合う。
<p>6. ふりかえりをして、あいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・元気にあいさつする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気にあいさつする。

[学校名：姫路市立城東小学校]

【具体的な研究テーマ】

夢をもち、自ら学び、高め合う子の育成
 ー教科指導型日本語指導から、全員が「分かる」授業づくりー

1 教科：単元名

国語：物語の良さを解説しよう「注文の多い料理店」

2 実施日（時期）

令和元年 10月2日（水）

3 実施場所

日本語指導教室（いきいき教室）

4 児童・生徒の実態に応じたねらい

(1) 児童の様子・・・学年・国籍、学習状況、日本語習得状況など

A児：5年（ベトナム）

3学年9月に来日。日本語を順調に習得し、日本語で学習に参加することができる。基礎的な学力が定着しており、学習内容は着実に習得できている。倒置法や比喩的な表現など、生活言語からかけ離れた言葉に対してつまずきがある。作文では、内容は、2～3学年程度の文章量である。表現したい言葉に対して、語彙が十分でないため、表現支援をしている。

1学期の文学教材「世界一やかましい音」の学習では、中心人物の変化した場面が山場であることは捉えられたが、全ての表現を理解して学習したわけではない。「だいじょうぶ だいじょうぶ」では、学習の初期はたどり読みであったが、練習をすることである程度流暢に読むことができた。

B児：5年（ベトナム）

日本生まれ、日本育ちである。家庭では、両親とはベトナム語で生活し、兄弟とは日本語で生活している。表現力が多様ではないのだが、自分の考えを伝えようとする思いは強い。覚えた言葉を使おうとする意欲が高いが、状況に合わない言葉で表現することもあるため、その都度教師が訂正をしている。

1学期の文学教材「世界一やかましい音」の学習では、物語のあらすじは理解することができたが、「山場とは何か」を汎用的に捉えることは十分ではない。「だいじょうぶ だいじょうぶ」では、言葉の速さや抑揚を工夫して音読することができた。

C児：5年（ベトナム）

3学年5月に来日。日常会話は日本語で理解できるようになった。学習は、ベトナム語の通訳でも理解が難しい。現在は、日本語で学習を進めている。学習の定着が弱く、以前学習した内容や学習言語を覚えていないことが多い。日本語の習得と学習の定着が難しい状況である。

1学期の文学教材「世界一やかましい音」では、物語のあらすじの理解はできた。理解レベルは「（中心人物）が（山場で起こる出来事）を通して、（中心人物の変化）する。」程度である。「だいじょうぶ だいじょうぶ」では、たどり読みで音読発表をした。

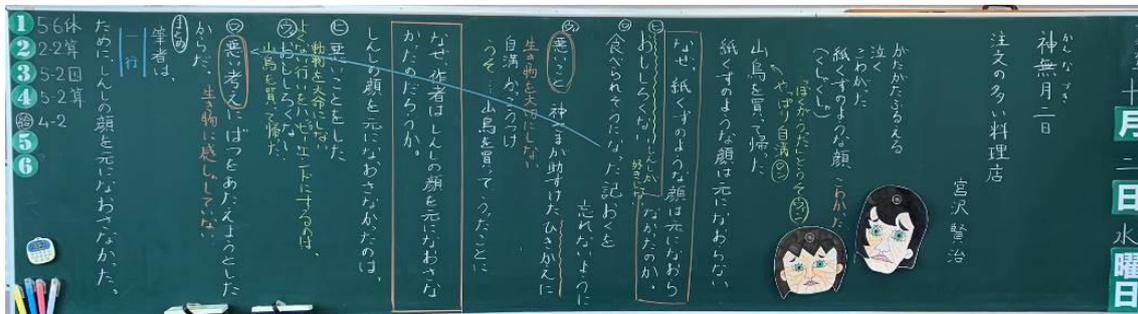
<p>(2) 日本語指導に関する目標</p> <p>ア 「紙くずのような顔」の意味を理解することができる。</p> <p>イ 「紳士の顔が元のとおりになおらなかったのは、～からです。」を使って、作者の意図や結末の効果を考えることができる。</p> <p>(3) 主な学習活動</p> <p>①第6場面を音読し、紳士の気持ちを考え、行動を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子を確認する。 ・紳士にとって「元気になって安心したという結末でいいのではないか」と問うことで、問いをもたせ学習課題を立てる。 <p>②紳士の顔が元のとおりになおらなかった理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1場面の人物比較をする。 ・性格の変わらないことを捉える。 <p>③作者の意図を考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ、作者は紳士の顔をもとになおさなかったのか」と問い、筆者の意図を考えるようにする。 ・主題に迫るためには、抽象度の高い表現にしなければならない。そのため、児童の考えたことを教師が問いかけたり、表現支援をしたりする。 <p>④本時の学習を振り返り、まとめを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめやすくするために、「筆者は、～のために、紳士の顔をもとになおさなかった。」とひな形を与える。
<p>5 評価の観点（※指導案に記載してある場合は不要）</p> <p>A まとめ「自分勝手な考えをゆるさない」「生き物の命を大切にすると」いった抽象度の高い言葉で表現することができる。</p> <p>B まとめ「紳士が自分勝手な考えのままだった」といった物語の言葉で表現することができる。</p>
<p>6 指導内容の概要（※指導案別途添付）</p> <p>筆者の意図や結末の効果を考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の意図「なぜ、紳士の顔は元のとおりになおらなかったのだろうか。」 ・結末の効果「なぜ、紳士の顔を元のとおりになおさなかったらいけないのだろうか。」 <p>上記の問いから、学習を深める。</p>
<p>7 指導内容・方法において工夫したところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リライト教材を使い、物語の概要をつかみやすくした。 ・「紙くずのような顔」が子どもにとって衝撃的な効果があることを捉えさせたかったため、絵本を読み比べて、一番インパクトのある顔を挿絵として採用した。 ・作者の意図が宮沢賢治の生き方、人間像との関連性に相関性がもてるように、教師が伝記や他の作品を読んだ。
<p>8 教材・教具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「注文の多い料理店」リライト教材 ・挿絵

9 活動の様子（写真等）や児童・生徒の感想等

・まとめのノート

- A児 筆者は、動物の命を大切にしないのはゆるさないために、しんしの顔を元になおさなかった。
- B児 筆者は、悪い考えにばつをあたえるために、しんしの顔を元になおさなかった。
- C児 筆者は、よくない行いをゆるすのはいけないために、しんしの顔を元に直さなかった。

・板書



・B児の感想

紳士は許せない。なぜなら、自分が殺されそうな体験をしても、生き物の命を大切にしないからだ。もしも山鳥を買って帰らなかったら、紳士の顔をもとになおしてもいいと思う。

10 日本語能力測定方法と評価（DLAの活用）

・日本語習得度確認シートとDLA採点表を使って、評価をした。

		話す	読む	書く	聞く
A児	5月	3-18	1-11	2-11	3-13
	2月	4-19	4-24	3-13	5-19
B児	5月	4-23	3-19	3-20	5-22
	2月	5-25	4-26	3-15	5-24
C児	5月	3-17	1-09	2-10	2-12
	2月	4-21	2-19	2-13	4-18

それぞれの児童の苦手とする領域が分かり、指導の際の手立てを意識することができた。児童の学習状況は成長する分野もあるが、学年相応に求められる力が高くなっているため、評価が低くなる場所もあった。

11 実践をとおしての成果

【教師としての成果】

上記3名の児童については、リライト教材が有効であることが分かった。他の単元でもリライト教材を利用することで、児童が長文を理解することができる手立てになることを知った。また、学習指導要領を読み、学ぶことを焦点化して学習展開をした。

【児童としての成果】

本教材では、児童にとって「紳士はいけない」という憤りを感じながら学習展開ができた。単元の目標である「表現の工夫」を見つけ、物語の面白さを感じながら学習に取り組むことができた。

12 今後の課題

単元末の評価テストでは、C評価にあたらないまでも、十分に記述できない状況にあった。次単元の物語の創作では、本単元で学習した「表現の工夫」の考え方を転移させた作文が十分ではなかった。学習で獲得した言語だけでなく、考え方を働かせた授業展開が必要である。

また、学習状況の系統と単元の系統を適切に整合させて、日本語の習得と学力を高める指導にあたりたい。

第5学年 いきいき教室1 国語科学習指導略案

指導者 有馬 章公

- 1 単元名 物語の良さを解説しよう「注文の多い料理店」
 - 2 本時の学習
 - (1) 目標 物語全体を通した作者の意図や結末の効果を考えることができる。【思考・判断・表現】
 - (2) 日本語の目標
 - ア 「紙くずのような顔」の意味を理解することができる。
 - イ 「紳士の顔が元のとおりになおらなかったのは、～からです。」を使って、作者の意図や結末の効果を考えることができる。
- ターゲットセンテンス
 ・なぜ紳士の顔は元のとおりになおらなかったのだろうか。
- (3) 展開

学習活動	指導上の留意点（評価）	備考
1 第6場面を音読し、紳士の気持ちを考え、行動を確かめる。 ・助かった。よかった。 ・山鳥を買って帰っている。 ・顔が元のとおりに直っていない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> なぜ、紳士の顔は元になおらなかったのだろうか。 </div>	・紳士にとって元気になって安心したという結末でいいのではないかと問うことで、問いを持たせ学習課題を立てる。	
2 紳士の顔が元のとおりになおらなかった理由を考える。 ・とても怖い体験だったから。 ・誰かが魔法をかけたみたいだ。	・第1場面ですらえた紳士の人物像を比較し、身勝手に横柄な人柄は変わっていないことに気付かせることで、考える手がかりとしたい。 ・また、見かけを気にする紳士にとって、大切な顔だけがなおらなかったことにも触れる。 ・「紙くずのようになった顔」の挿絵を提示することで、物語の終末のインパクトの大きさを感ぜさせる。	挿絵 視覚化
3 作者の意図を考え、話し合う。 人間への戒め ・自分勝手な考えをしている人間は、しっぺ返しをくらう。 命を大切にす教訓 ・生き物を大切にしようとする内容を物語に持たせたかったから。	・考えにくい児童のために、もし紳士が元気付いて安心した結末ならどう思うかと問い、作者の意図に迫りやすくする。 ・左記のように、二通りの考えが予想される。これらのように物語を自分なりに解釈している児童の考えを取り上げ、共有化することで、作者の意図に迫ることができるようにしたい。 ・児童の発言は、単語的になることが予想される。表現が豊かになるようにするために、教師が問いかける。	焦点化 共有化
4 本時の学習を振り返り、まとめをノートに書く。 筆者は、 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・自分勝手考えをしないようにする ・生き物の命を大切にする </div> ために、紳士の顔を元になおさなかった。	・本教材で作者が伝えたかったことを自分なりにまとめるようにする。 ・表現支援のために、「筆者は、～ために、紳士の顔を元になおさなかった。」とひな形を与える。字数を20字に制限することで、考えをまとめるように書く。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 紳士の顔が元にもどらなかったことから、作者の意図を考え表現することができる。 </div>	学習ノート